

大会参加レポート  
全日本大会  
2004年3月28日

# 地底探検・海底探検

木村佳司

トレイン・地図とも楽しめた山口全日本大会。旅行としても楽しめた春休み。

平尾台オリエンテーリング大会  
2004年3月27日(土)  
福岡県北九州市平尾台

全日本オリエンテーリング大会  
2004年3月28日(土)  
山口県秋吉台

## 洞窟とカルストの旅

洞窟探検と春うらのカルスト。今回の山口遠征と言えば、この2つが印象的だ。3日連続で地底探検なんて、想像もしていなかった。

## 海底秘密トレーニング

「本州と九州ってどのくらい離れているか、知ってる？」答えは800m。関門海峡を歩いて渡る道があるってコトを知っている人は意外と少ない。関門海峡に優雅な姿を映す関門橋。その橋のふもとに「関門トンネル人道」がある。歩行者の通行料金はタダ。

エレベータで降りると、まっすぐに伸びる一本の歩道が現れる。地下60mの海底をまっすぐに歩く。さっきまで下関の港で眺めていた巨大な貨物船が頭上を通り過ぎていていると思うと、すごく不思議な感覚だ。一緒に連れてきた息子のトモヨシ君は初めての体験にワクワクを隠し切れない。



関門人道トンネルの中に山口県と福岡県の県境がある。

海底散歩を楽しむ私たちの横を駆け抜ける人たちがいる。海底のトンネルを何往復もして走りこんでいる。なるほど、ここは22時まで照明のある屋内ロードだ。帳の降りた下関の陸上を

走るより、安全で快適なトレーニング環境がここにはあった。クロスカンリースキーの練習用にフィンランドにはスキートンネルがあると聞いているが、ここはさしずめランニングトンネルだろうか。年中変わらない気温。V字に折れ曲がった適度なアップ。片道800mの素敵なコースだ。

連絡船から見る関門橋。日本でもココでしか見られない巨大シロナガスクジラの骨格展示のある下関水族館。イルカの見えるレストラン。レトロな門司港駅。鉄道大好きなトモヨシ君には見逃せない九州鉄道記念館。ここ下関門司エリアは魅力いっぱいだ。

## 平尾台へ

全日本大会を翌日に控えた3月27日。平尾台オリエンテーリング大会に参加した。この大会は北九州オリエンテーリングクラブの粋な計らいで開催されたもの。

翌日に全日本大会が開催される山口県秋吉台は日本では珍しいカルスト地形。そんなカルスト地形でのナビゲーションに慣れるには、似たようなカルスト地形を走っておくのが一番。

北九州平尾台は秋吉台に良く似たカルスト台地が広がっている。山焼きによるオープンが広がっている点も秋吉台にそっくりだ。

自由にスタートできる形式だったので、カルストの地形をトモヨシ君に教えながら走れたのが良かった。面白い。こんな中をナビゲーションしながら走るなんて楽しい。全日本の前日イベントという軽い位置づけだけではもったいないと思うほどだ。

そそり立つ石灰石の巨大さに驚き、ドリーネの深さに驚く。学校の社会では感じられない体験がそこにはある。

全日本大会のトレーニングとして多くの者がこのイベントに参加していた。レース後に車でトレイン内の鍾乳洞に向かうとき、トレインを走るランナーがたくさん見えていた。

## 気分はインディジョーンズ

いやー面白い。こんなに面白い鍾乳洞は初めてだ。平尾台のトレイン内に

ある鍾乳洞はホントに冒険気分を満喫できた。

その洞窟は長さ1.1kmにわたって公開されている。最初の450mは普通に歩道で観光できる。そこから先は洞窟内を流れる地底川にジャブジャブと入って奥へ、奥へと進んで行く。途中は人が擦れ違えないほど狭い場所もある。大人がやっとくぐれる低い場所もある。この先ホントに酸素があるのかなあ？と思うような場所の連続。しかしそんな冒険も900m地点まで。そこから先は懐中電灯が無ければ真っ暗闇。気分はインディジョーンズ!



「千佛鍾乳洞」子供でもしゃがんで通る狭い箇所もある。水はしっかりと流れている。

真夏のハイシーズン、入場者が多くなると、奥にいる人は出てこれなくなるんじゃない?

## 秋吉台全日本大会

3月28日。カーナビに導かれるままに辿り着いた全日本大会会場。会場横の駐車場、会場横のスタート地点。子供連れには嬉しい配置だ。そして雲ひとつ無い空。

2週間前のインカレ併設クラスで思わぬ優勝を果たした私は、この日も二匹目のドジョウを目指して走り始めた。

秋吉台の巨大なオープン地帯に出る。「広い」。

しかしそこで私を待っていたのは、アリ地獄のような微地形凹地群だった。

「やっちゃった」 現在地口スト。二匹目のドジョウが白旗を上げた瞬間でもある。

それでもコントロールをこなしてゆくと、何とか地図は読めてくる。オープンな地形ゆえにコツを掴むともう迷わないぞ。しかし登り斜面でとうとう足が止まる。

ふと周囲を見渡すと、あっちにも、こっちにもランナーが走り回っている。オープンな秋吉台ではマラソン大会のように多くの競技者の中で走っていることが実感できる。ここではオリエンテーリングは孤独な森のスポーツではない。同じクラスの藤井氏、宮川氏が私をあっさり追い抜いていったのもハッキリと確認できた。

コース終盤は秋吉台のオープン地帯からカルストの森林地帯へと下って行く。この切り替わりが秋吉台でのオリエンテーリングの醍醐味。当然、オープンほど視界が利かない。慎重なナビが勝負を分ける。

素晴らしいテレイン、正確な地図、チャレンジングなコース、80分とは思えない濃い内容のオリエンテーリングだった。

レース直後には会場にある温水シャワーで汗を流してすっきり。



マガジン購読受付を行うトモヨシ君。(M10) 本日のレースでハマッて、フテている。

## 全日本大会観戦？

大会が終了した後は、テレインの地下にある秋芳洞観光。テレインは、ほのぼのとした風景なのに、地下は大勢の観光客がゾロゾロ。さすが日本一の鍾乳洞。昨日の千佛鍾乳洞と比べ、格段に広い。もちろん内部は神秘的。きれいにライトアップされている。

「洞内照明の消える夜中に、懐中電灯を手に探検すると、秋芳洞は100倍楽しいぞ。」

私が山口大学の学生だった昔、そんなコトあったっけ。よゐこはそんなコトしちやダメだってば。

秋吉台展望台に登ると、先ほど走ったテレインのパノラマが目の前に広がる。地図を片手に「あそこがコントロールか」などど口走ってみる。

100円の望遠鏡を覗くと、もっとよく見える。数時間前にここに立った人は、秋吉台を右往左往する人を見ていったい何を思っただろう。この人たちこそ全日本大会の観戦者だったのだろう。



展望台で記念写真

## カルスト庭・雪舟庭

全日本大会の翌日は山口観光にでかけた。20年ぶりに見るとあらゆる風景が新鮮だ。

「秋吉台みたいだねえ。」

画聖・雪舟が作ったとされる「雪舟庭」が山口の観光地にある。芝生の中に石が飛び出した様式の庭。戦国時代に荒廃した京都から逃れた文人たちが作った雅な庭も、トモヨシ君の目にはタダのカルスト台地だった。人形でも持たせるとオリエンテーリングごっこでも始めそうだ。



常永寺雪舟庭



桜満開。山口の瑠璃光寺五重塔(国宝)

(木村佳司)



全日本大会。会場よりスタートする。周囲より声援がとび。